



子どもたちに 読書の 喜びを届けたい。



絵本を
介して

心豊かな
時間を



読書ボランティア「スイミーおはなし会」の皆さんが主体となり8月23日に中央公民館で開催した「えほんとわらべうたの会」。この事業は読書ボランティアと三芳町が協働で毎月開催し、地域に読書を根付かせる取り組みになっています。

絵本の持ち方や読む速さ、ページをめくる間などを図書館長から指導を受けます。「一期

質の高い読み聞かせ

図書館の事業に参加する職員はもちろん、臨時職員やボランティアスタッフは研修を受けてから皆さんの前で読み聞かせをしています。

さん聞こえてきます。
ブックスタートプラス
赤ちゃんに読み聞かせをするブックスタート。「いないいないばあ」「じゃあじゃあびりびり」の2冊を読み、好きな1冊をブックスタートのバックと一緒にプレゼントします。
また三芳町では独自に2歳6か月児向けに「ブックスタートプラス」を実施しています。読み聞かせ黄金期に絵本により興味を持ってもらうようにと平成23年から開始しました。
この2つの事業は、図書館に

ボランティアと協働

隣接する保健センターで行う乳幼児健診後に実施。自身が住む町の施設を知ってもらうため、より身近なものに感じてもらうために、保健センターと図書館が密に連携を図っています。
毎月第4火曜日に中央公民館で乳幼児向けに絵本・手遊び・わらべうたを楽しむ「えほんとわらべうたの会」が始まりました。この事業は町と図書館読み聞かせボランティアが協働で実施。絵本に詳しく子育て経験もある住民の皆さんが活躍しているため、読み聞かせだけではなく、子育ての悩み相談にも応じています。「こうした事業があるので、外にでるきっかけとなるので本当に助かります」といった参加者の声が聞かれました。



10月14日に図書館で行われたブックスタートで読み聞かせを行った皆さん。子育ての経験を三芳町の子どもたちや保護者に還元させています。

ブックスタート・ブックスタートプラス・ぐりぐらタイム・えほんとわらべうたの会
ことばが育つ、こころが育つ、こどもが育つ。

三芳町の子どもたちや保護者にホントノ魅力を届けるため、質の高いスタッフたちが町で活躍しています。その多くは住民ボランティアの皆さんだということをご存知でしたか。

利用者の声

ぐりぐらタイムが楽しみ

今日は4か月児健診後のブックスタートに参加しました。数年前に三芳町に引っ越してきたのですが、以前暮らしていたところよりも、図書館の事業が充実しています。私も読書が好きなので、3歳になる上の子と一緒に「ぐりぐらタイム」を利用しています。わらべうたや手遊びが子育てにとっても役立っています。今後も図書館を利用して子どもたちに読み聞かせをしてあげたいと思います。

ブックスタートに参加
高橋初実さん・知仁くん

「一会」「幸せな時間の共有」「主役は本と子ども」を意識し、子どもの心の動きをしっかりと捉えながら一緒に楽しむことができているかなどを確認。事業終了後は反省会を開き、次回以降の活力にし、質の高い読み聞かせを提供しています。



2歳6か月児を対象とした「ブックスタートプラス」。読み聞かせをしているボランティアスタッフの川越節子さん(写真上)は町立保育園で長年勤務した経験を活かし、保護者の相談などにも応じています。

実はこの見開きページには一人も町職員はいません。全員ボランティアや臨時職員。「子どもやパパ・ママの笑顔が見たいから」という皆さん。地域に根付いた愛情が子どもたちと読書を支えています。

ぐりぐらタイム

聞く力を育てる場として20年以上愛されている町独自の事業「ぐりぐらタイム」。ぐりとぐらの人形を使い「絵本・紙芝居・手遊び」をして楽しめます。毎月第一・三金曜日と第一日曜日に開催。その日は図書館から元気な子どもたちの笑い声がたく

乳

幼児期は、ことばや心が育つ大切な時期。特に好奇心旺盛で感受性が豊かな2歳から6歳は、人生の中でも最も絵本やお話を楽しむことができる。読み聞かせ黄金期と言われる、本が好きになる「根っこ」が育ちます。この大切な時期に三芳町では、親子で絵本を介して心豊かな時間を作ってもらうための事業を行っています。



ぐりぐらタイムが終了後、部屋から出ると「ぐりとぐら」が子どもたちを見送ります。